ももの くいしんぼう すけっちびより

第53回

山を考える 山は自然のもの？ 人のもの？

盤渓地区に人の手が入らない山を残そうとしている団体がある。もともとの山の所有者だった横山誠（よこやままこと）さんが近年立ち上げた一般社団法人にむの森だ。人が踏み込まない、手付かずの山を後世に残したいと、横山さんが考え始め、その考えを知ってもらうためのツリーハウスを建てたのは、かれこれ12年前のこと。森と人の間をつなぐ場として、森の生態系の中に人が入れる場としてツリーハウスを作ったそうだ。

一度人の手が入った森は自然の生態系に戻るまでいったい何年かかるのだろう？横山さんは「この森は100年近く人の手が入ってない。それでも二次原生林に戻るまでは500年かかると思っている。」と話す。気の遠くなる話だが、自然との営みは人間の時間感覚とは違う速度で生きているのだということを痛感する。

横山さんは先代から引き継いだ会社が森林伐採をする林業であった。途中でその仕事が嫌になり、仕事を変えた経歴がある。その罪滅ぼしで始めたようなものと「人工林の木々は争っているが、自然林の木々は助け合っているということがわかってきた」という。

本来、人も自然の一部。だから自然林に手出しせず、この環境を維持するために尊重し助け合わなければ、どこかで綻びが起きる。山は山に生きるものの「もの」なのではと思う。それは昨今の熊の出没しかり、海水温が上昇し、雨の降り方、風の吹き方も変わり、四季が失われ二季となってきたことと結びついているのではと思わずにはいられない。「森から学ぼう」と呼びかけるにむの森の活動がこれからも広く周知され、二次原生林となる500年を目指し、次世代につながっていくことを祈っている。

にむの森、ツリーハウス２号棟

すずき　もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile:ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこと」。